ITEM 05

「ニット」のシミや汚れを一掃する

毛の中までキレイにするなら、自宅での手洗いがオススメ。ただ、カシミアはデリケートな素材なので、クリーニングに出すのが最適。

ケアに必要なアイテム

洗剤
汚れを落としつつ、毛糸に含まれる天然成分も保護する。ウールカシミア用。1300円/ザ・ランドレス(ジョンスメドレー 銀座店)

シミ取り剤
シミに直接つけて指でなじませるだけで、頑固なシミを分解。部分洗いにも。1800円/ザ・ランドレス(ジョンスメドレー 銀座店)

平干しネット
直径69cmの平干しネット。使用後にコンパクトにたたんで収納できるのも魅力。1600円/(ダイヤコーポレーション)

STEP 1 洗濯前にシミがあるか入念にチェック
シミがある場合は水洗いをする前にきちんと落とすのが鉄則。表に当て布をしてから、シミ取り用の洗剤で裏から叩くとキレイに落ちる。

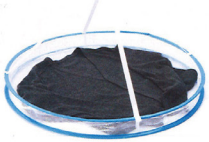
STEP 2 たらいに入れたぬるま湯に洗剤を溶かす
ニットを洗う場合は、なるべく大きなたらいを用意。ぬるま湯は30℃以下であることも覚えておこう。ちなみに洗剤は中性洗剤を使うこと。

STEP 3 ニットを裏返しにして、たらいの中へ
汚れがしっかりと落ちるよう、ニットは必ず裏返しにすること。カーディガンなどのボタン付きも同様。それが型崩れ防止にもつながるのだ。

STEP 4 ニットを洗う時は必ず押し洗いで
もみ洗いは色が抜けることもあるので、ニットは押し洗いが正解。すすぎも押しながら。洗剤の泡が完全に抜けるまで繰り返し行なうこと。

STEP 5 脱水は洗濯ネットに入れて洗濯機で
自力での脱水はかなり時間がかかるので、ここは洗濯機に頼るのがベター。ニットを裏返したままキレイにたたんで洗濯ネットに入れて脱水。

STEP 6 平干しネットを使用して陰干し
屋外で干すのがベストだが、陰干しが難しい場合は風通しのいい屋内でもOK。ちなみに日にあたると日焼けしてしまうので外干しの際は注意。



STEP 7 最後に当て布をしてアイロン掛け
ニットのカタチがキレイに整うよう、アイロンで仕上げる。アイロンを直接あてると傷みの原因にもなるので、必ず当て布を使って。

飛び出たニットには補修針が有効

知らぬ間に引っ掛けて飛び出てしまった毛糸。ほつれ補修針を使うとあっという間に元に戻すことができる。意外と簡単なのでお試しあれ。

ほつれ補修
太さの異なる2本の補修針がセットになったこちら。ニットには太い針を使用するのがオススメ。450円/クロバー(同)

衣類に付いている洗濯表示マークを覚える

洋服を適切な方法でケアするために、洗濯表示の意味も知っておく必要がある。海外ブランドとも共通なので、早速チェック!

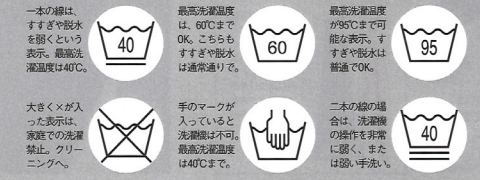
[漂白処理について]

塩素系・酸素系漂白剤を使えないマーク。漂白剤は使用しない方が良い。

酸素系と非塩素漂白剤を使用できる。ちなみに塩素系の使用は不可だ。

漂白剤でもっとも強い塩素、または酸素系の使用が可能という表示。

[洗濯処理について]



一本の線は、すすぎや脱水を弱くという表示。最高洗濯温度は40℃。

最高洗濯温度は、60℃までOK。こちらもすすぎや脱水は通常通りで。

最高洗濯温度が95℃まで可能な表示。すすぎや脱水は普通でOK。

大きく×が入った表示は、家庭での洗濯禁止。クリーニングへ。

手のマークが入っていると洗濯機は不可。最高洗濯温度は40℃まで。

二本の線の場合は、洗濯機の操作を非常に弱く、または弱い手洗い。